

平成27年度・第34回
 関東ブロックスポーツ少年団競技別交流大会
 (ミニバスケットボール競技)茨城県予選

寿 (中央)	47			15	vs			15	45	八千代 (県西)
		8	10							
		16	4							
		8	16							

ジャンプボールのこぼれ玉を奪い八千代ボールでゲームスタート。
 八千代はスピードを活かし先制。対する寿は④にボールを集めインサイドで得点。
 八千代はインサイドを攻めあぐね、ミドルレンジのジャンプシュートを多投。
 寿は④がゴール下で得点、更には自らがおとりになり見方の得点をアシストしリードを広げる。
 それでも粘り強くリバウンドのこぼれ玉を拾った八千代が⑦のロングシュートで同点にし1Qを終える。

寿⑨・⑩が活躍し1Q同様ゴール下を制圧。対する八千代はミドルレンジでのジャンプシュートを打たざるをえない。その中でも八千代⑬が高さで対抗し点差を縮める。
 寿は徐々にゴール下のシュートをこぼすようになり八千代にリバウンドを奪われる。
 2Q終盤、八千代は⑨のジャンプシュートで逆転に成功。
 八千代が2点リードで前半終了。

寿の2-3のゾーンディフェンスに対し、八千代は外角のシュートでリードを広げる。
 しかし寿は④・⑨・⑩のビッグマンがゴール下を支配し同点から一気に逆転に成功。
 八千代は次第にジャンプシュートの精度が落ち始め、リバウンドを取られ、このクォーターの得点を4点に押さえられてしまう。
 寿が10点差までリードを広げ3Qを終了。

10点を追う八千代は⑤・⑦のジャンプシュート等で点差を縮める。ディフェンスでもボールマンにダブルチームを仕掛けボールを奪う。身長差で不利なリバウンドも、こぼれ玉に喰らい付き、フリースローも確実に決め、じわじわと点差を縮める。
 しかし寿も高さの利を活かし、4連続のオフェンスリバウンドを奪うなどし追加点を挙げ相手を引き離しにかかる。
 終盤に八千代が同点のチャンスとなるフリースローを得るも、疲れからか精度を欠き得点ならずタイムアップとなった。
 高さの利を発揮した寿が夏の王者となった。敗れはしたがスピードと必死にボールに喰らい付く精神力を見せてくれた八千代にも最大限の賞賛を送りたい。